

望み豊かに大らかに 希うより行動しよう

新座市立第四小学校 田中 希望

コロナ禍や時間外労働の上限規制により、教員の働き方はこれまでとは大きく変わってきました。「VUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)の時代」と呼ばれる現代社会での変化に取り残されないように、教員生活を一〇年超えた私が二〇二〇年から取り組んでいる、生き方を紹介していきます。

リラククスとインプット

リラククス効果と作業効率を高めるために、職場では「クリック音のしないマウス」「体圧分散クッション」を使用しています。ちょっとしたことで、環境は変わります。また、仕事は一切持ち帰らずに、スポーツクラブに立ち寄り、25m×4本泳いでシャワーを浴びて、一日の汗をすっきりと洗い流してから自宅へ帰っています。平日はそ

の日に録画した『堀潤モーニングFLAG』『連続テレビ小説』『徹子の部屋』『5時に夢中!』『バラいろダンディ』『WBS』を視聴して、世の中を知り、物事や出来事を自分事として捉えています。その中で興味をもった事はメモをしたり、翌日以降に子どもたちに伝えたりしています。

ゆとりある心と時間

寝る時間は最低6時間確保して、次の日の気力・体力へと繋げています。何よりも心身の健康は第一です。毎日、「今日は何の日?」なのかを調べ、偉人・先人の名言に触れることを日課としています。日本の公園の父である本多静六博士(久喜市旧菖蒲町出身)の名言「人間は活動するところ、そこに必ず新しい希望が生まれてくる。希望こそは、人生の生命であり、それを失わ

ぬ間は、人間はムダには老いない。」とフランスの詩人ルイ・アラゴンの『ストラスブール大学の歌』の一節である、「教えるとは希望を語ること。学ぶとは誠実を胸に刻むこと。」が最近のお気に入りです。

サードプレイスを軸に

学校・家庭以外のサードプレイス(心地の良い第三の居場所)を大切にしています。不定期なものも合わせれば、たくさんありますが今回は定期的に活動している三つの話です。【教職員組合】で得られる、学校では学び得ることの出来ない他校や他市町村との交流によって見えてくる成果と課題は大きな財産です。昨年度は勤労者通信大学基礎理論コースを受講して、法律や労働についての見識を深めました。【先生の学校】では、オンラインを通じて全国各地の学校の先生方と協働的な学びを繰り広げています。【毎日ビデオジャーナリズム】では、堀潤さん・下村健一さん・小川一さんから番組制作やメディアリテラシーを学んでいるところです。どれも日々の教育活動に結びついています。

視点や意識を変化させるだけでも働き方や生き方はプラスになります。まずは身近なところから、始めてみましょう。

長く続けていくために

川越市立寺尾中学校 泉 七星

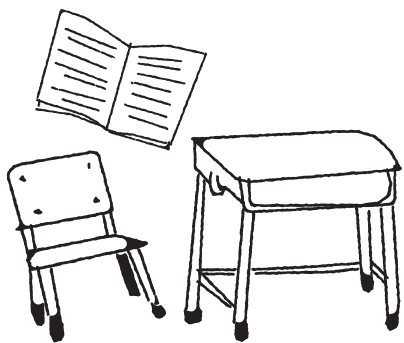
教員生活3年目となりました。以前よりも不安に思うことが少なくなり、教員生活を楽しめるようになりました。また、この仕事を長く続けていきたいとも思うようになりました。そうした気持ちの変化が生まれた、1年目から3年目までを振り返りながら、今の私が考えていることを綴りたいと思います。

教員生活1年目は、多くのことに迷いながら日々を過ごしていました。周りの先生方は、先を見据えながら仕事を進めているように感じていました。一方の私は、目の前のことに悩み他の先生方に助けていたばかりながら、なんとか日々を過ごしていました。学級経営では、他のクラスで何が行われているのかということに気がしすぎ、形ばかり整えようとしてしまうこともありました。

教員生活3年目となった現在も、多くの先生方に助けていただいていることには変わりありません。ですが、不安や焦りなどは1年目の頃より少なくなりました。それは、どの時期に・どのようなことを・どのような方法で行えばよいのかが少しずつ分かってきたからだと考えています。以前は、他のクラスで何が行われているのかばかりを気にしすぎ、目標を見失うこともあった学級経営ですが、現在は、居心地のよい学級にすることを目標に、何をどのように行えばよいのかと考えるようになりました。

これまで感じてきた不安の多くは、時間の経過や経験によって解消されていきました。また、他の先生方に相談することで不安の解消をはやめることができました。不安を抱えている初任者の方もいらっしやる

と思いますが、たくさんのご経験したり、周りの先生方に相談したりすることで不安を解消していきましょう。現在の私は、生徒に何を身に付けさせたいのかという目標に向かい、今の自分が何をどこまでできるのかを考え行動しています。またそれと同時に、焦りすぎて息切れしてしまわないようにと自分に言い聞かせながら教員生活を送っています。生徒と関わる時間を増やすため、教員生活を長く続けるためには、それが必要だと考えます。生徒が「人格の完成」を目指し成長していけるよう、私たち教員同士が切磋琢磨し、よりよい教育活動を目指しましょう。



焦りすぎず！

日々に模範解答はなし

県立越ヶ谷高等学校 勝田 ゆり乃

こんにちは。新しく教員になられた先生方、慣れない環境の中で本当に毎日お疲れさまです。

私は現在、初任から4年目の教員として必死に日々を過ごしています。今も3年生担任として悩みもつきませんが、大学を卒業し教員として過ごした頃を思い出すと、今以上に不安で手探り状態だったなあと、今更に思います。学校から最寄り駅まで歩く道を号泣しながら帰った日も少なくありません（怪しい人です）。きつと、新しく教員になられた先生方もそのような方はいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな先生方に向けてお話できる大層なアドバイザーのようなものは全くありませんが私の今までの失敗だらけの経験のなかで実感した反省をほんの少しお伝えしようと思います。教員を始めた1年目や、2年目（そのと

きは担任1年目でした）は不安が強く、常に周りの先生方と自分自身を比べ、早く追いつかなきゃと焦る気持ちが強くありました。また、教員としての振る舞いに「正解」を常に求めていたと思います。その結果、肝心な生徒へあまり目が向いていませんでした。

そんなとき、担任していたクラス内に、サポートが必要な状態にだんだんとなっていた生徒に気が付かず、気が付くのが非常に遅くなってしまったということがありました。クラス運営の出来をほかのクラスと比べているうちに、クラス全体をふんわりと見てしまい、生徒たちへの視線が少なくなっていたのです。その後、その生徒の保護者、周りの先生方と協力し、その生徒とともに最善の道を探し、結果的には本人の願っていた形に落ち着くことができました

（あまり詳しく書けずすみません）。この経験から、ある一定の形の「正解」はないということも強く実感することとなりました。

私が先輩の先生から教わったのは「教育の成果が分かるのなんて、すぐの時もあるし、10年、20年先かもしれないし、一生ないかもしれない。でも未来に向かって（教育という）種をまき続けることに意味はある」という言葉です。その時その時に、目の前の生徒のためになることは何か、と一生懸命考えつづけ、常に試行錯誤し続けることにこそ、価値があると思っています。強いて言うならば、それが「正解」なのかも。目標となる先生方はたくさんいらっしゃいます。しかし、まるまるその先生のやり方を模倣することよりも、周りの先生方の素敵だなどと思うところを少しずつ集めて参考にしつつ、自分なりの方法で生徒に向き合っていきたいと思っています。埼高教の素敵ないろんな先生方とお話する中で、自分の指針となるものを発見できたことも少なくありません。ぜひ、同じ教育に携わる仲間として、みなさんともお話できる機会を楽しみにしています。

「悩む」とは 悪いことじゃない

県立上尾かしの木特別支援学校 小林 州平

新年度が始まって数か月が経ちました。新任の先生方は子どもたちのことや職場のことがなんとなくわかってきた頃でしょうか。特に子どもたちとのやり取りの中で新しい発見があったり、子どもたちの気持ちがわかったりすると嬉しくなりませんか？とは言っても子どもたちは毎日違う顔をすするし、保護者との関係も…そんな悩みもあるのではないのでしょうか。

「仕事は人間関係だ」という言葉を聞いたことがあります。子どもたちとの関係や保護者との関係、同僚や管理職との関係：人がたくさんいる中で人と関わる教員という仕事は、まさにその通りだと私は思います。ですが、悩んで良いのです。一生懸命やろうと思っているから悩むし、相手と良い関係を築きたいと思うから悩むのです。私は現在、高等部2年生の重複学級の担

任をしています。私のクラスのN君はパニックになると他害をし、そのことについて保護者も大変困っていました。パニックになって他害をした後落ち着くと、N君は相手に負わせた傷を見て何度も頭を下げて謝ろうとします。「手が出てしまうのは衝動なんだよね、やってはいけないとわかっているんだよね」とN君のことがわかったとき、私は少し気持ちが楽になりました。『いけないことをしてしまった』ということに気が付いたからです。

しかし、他の児童生徒への他害があったときには保護者に連絡をしなければなりません。保護者は学校からの電話に敏感です。特に他害がある児童生徒の保護者は、電話に出ると「何かありましたか!？」と食い気味に言ってきます。起きた事実は伝えます

が、やはり学校から電話があるときはそういった嫌なことばかり。その子が悪い訳でも保護者が悪い訳でもない、誰もが一生懸命なのに。私もケガが絶えず悩みました。ある日N君がパニックになり、30〜40分ほど暴れていたことがありました。噛みつきや引っかけ、殴る蹴る：あらゆる攻撃を受けました。泣き喚き汗びっしょりになったN君が落ち着いた後、N君の手のひらをマッサージしているときに私の目から涙がこぼれました。「一番辛いのはN君だね」。N君のことをまた一つ理解できた瞬間でした。悩んでいた分、気付きがあったとき、それは大きな経験値になるのではないのでしょうか。

私は保護者に電話をするとき、良かったことのみでも電話をします。保護者の目の届かない学校での良いことを共有することで、生徒の見方が変わるのです。子どもたちは家や学校、デイサービスなどの場所ですべて素の顔を持っています。それは、すべて素の顔です。その時々において、子どもや保護者が求めていることを考え、悩んでください。悩みながら人間関係はできていくのだと私は思います。

「養護教諭になってよかった」と感じる瞬間を

県立川口工業高校 稲毛 倫世

1学期の間、健康診断や健康管理に忙しい毎日、お疲れ様です！感染対策、熱中症予防、コロナの状況で行事はどうする等々、子どもたちの落ち着かない実態もあり、やりがいを感しながらも苦勞されているのではないのでしょうか。2年前の本誌に、友人である中学校の黒須勝枝さんが寄稿していました。私も、小・中・高・特別支援学校で奮闘する養護教諭のみなさんにエールを送りたいと思います。

私自身、「養護教諭になってよかった」と感じるのは、週に数回くらい。（これって多い？少ない？）ため息をつくことが多い日々ですが、生徒や職員とのやりとりでそう感じ、いい意味でリセットされます。保健室では、子どもたちの手首に触れて体温を感じながら脈をとったり、肩の凝り具合を触ってみたり、そういう対応をしてい

ます。（性別に関わらず、相手の身体に触れることには配慮が必要ですが）そして、心からの笑顔がない子どもに、だじやれやギャグを飛ばして、「ふふっ」と笑う瞬間に緊張して張りつめていた肩の力が抜けるのを感じます。からだが見すメッセージ（体温・脈拍・呼吸・血圧などのバイタルサイン、顔色や表情、自覚症状の訴え）を受け取り、生活習慣や人間関係にアプローチできるのは、やりがいであり苦勞でもありません。多様な子どもたちに対応するためには、健康教育や性教育、発達を学ぶサークルでの学びと交流が力になっています。

私たち教職員の仕事は学校現場の最前線ですから、人の配置不足等により、私たちの責任としては受け入れがたい事態が生じることがあります。結果的に保護者などから理不尽な苦情を受けることもあります

ね。私も、足首を捻挫した生徒を、担任・保護者に連絡できないままに帰宅させてしまい、苦情を受けた経験があります。苦情に対しては、相手と目標や目的を共有しながら、「本当に訴えたいことは何？」と探りながら、初期対応が大事です。そして、「心は自由で」いきましょう。人間ですから「嫌だなあ」と感じることもあります。顔には出さないように対応しながらも、心の中では何を感じても大丈夫！そして、信頼できる仲間、苦しさや辛さを聞いてもらいましょう。安心して語り・聞き取る関係性は私たちにとって大切です。どこに信頼できる人がいるかを探る旅は生涯続くのかと思います。

最後に、当たり前の平和な日常が続き、みなさんが健康で安全に日々を過ごされるよう、心から願っています。



働くための権利と力量アップの師・仲間を

成蹊大学非常勤講師 高橋 喜代治

私は県西部の中学校で国語教師として30年ほど勤務し、その後、都内私立大学（教職課程）の教員になり今に至っています。中学校の部活指導では野球部やソフトボール部などを担当し、市内大会などで何度も優勝するほど本気でやりました。

十年ほど前のある日、私の教職概論の授業を受けている学生から「急にバイト先から連絡があつて授業を欠席します」という連絡がありました。バイト先の都合で急にシフトが変更になったのだそうです。私は驚いてしまい勤務条件などを色々尋ねましたが、はつきりした勤務条件など聞かされてないということです。そして断れないというのです。教職概論を履修している学生の多くが塾や飲食店などで働いていました。そこで私は学生たちに労働条件に関する知識として「年次有給休暇ってどんなこ

と？」とか「会社のロッカーで身支度する時間は勤務時間に入る？」とか、教室の50人ほどの学生に問うてみました。手を上げちゃんと答えられる学生はいませんでした。これは、ほんとは大変困った事です。もちろん学生のせいなどではありません。あと2年ほどで実際に学校で働くことになると、これでもいいはずはありません。

そこで私は、次回の授業のテーマを「働く教職員の諸権利」に変更して、年次有給休暇や病休、研修権などについて教材を用意し授業を進めました。教職員になるということは、一人の教育労働者として定年まで40年前後働き、人生を作り出し過ぎずというところでもあります。教師とは何か？テーマの教職概論には相応しい課題の一つと気付いたからです。テキストとして使ったのは埼玉県教職員組合編集・発行の『女

性の権利手帳』や『職場ハンドブック』などです。

さて、今年から埼玉の学校で働く教職員のみなさん。そんな私の経験から次のことを私の言わざとします。

まず、教職員として働き人生を作っていく構えとして、諸先輩たちが歴史的に作り上げてきた教職員の諸権利の知識を身につけて自分を守り切り拓く力としてください。職場には長い間の勤務経験を持ち、病気や出産など様々な経験を積んだ先輩教職員が必ずいます。聞けばさっと話してくれそうです。上記の『女性の権利手帳』や『職場ハンドブック』は必読です。座右の書として。

それから、「これぞ、この人ぞ」という授業づくりや教職員の先達を職場や職場外に見つけ勝手に弟子入りしてみてください。教育雑誌を購読したり、官民間問わず色々な教育研究会にも出かけてみてください。民間研究会もたくさんあって本質的で刺激的な実践を提起しています。そこには必ず、真似したくなるような実践があり、その先達がいるはず。同行の仲間もいるはず。

子どもは好奇心の塊

埼玉総合法律事務所 弁護士 古城 英俊

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大によって、リモートワークが推進され、オンラインでの会議なども当たり前になってきました。教育現場でも、学校への登校を減らしてオンラインでの授業を行っているところもあるようです。私の息子が通う公立小学校でも、生徒全員にモバイルパソコンを配布し、土曜日にオンラインでの授業の試みが始まりました。コロナ禍で働き方だけではなく、子どもの学習環境も変化しつつあります。

しかし、子どもたちの好奇心はいつの時代も旺盛です。公園や裏山を散歩すると、木々の間から見える光、葉っぱの色や形、風のおい、鳥の鳴き声や川のせせらぎなど自然のものだけでなく、看板の漢字や字体まで興味津々です。小川が流れていると、水を触りたくて仕方ありません。大人が「危

ないから」と言っても聞きません。水を触ると、転がっている石を拾って石の裏の泥も触ります。そして、目に見える物や感じたことについて、「何?」「なんで?」と質問ばかりしてきます。子どもは、五感をフル活用して楽しそうです。質問の先には、自分で考えたい、という欲求もあるようです。子どもからの質問について考えてみると、いろんなことを自然の中で学ぶことができるんだな、と感じることがあります。太陽の光と影、花びらの数、石の成り立ちなどなど。

これからパソコンでの授業も広がっていくと思いますが、パソコンでは自分の影を見ることも、葉っぱや石に触れることも、風を感じることもできません。子どもたちは、石を平面的に見たとき、その石を持ち上げて違う方向から見ても形を確認し、感触を確

かめ、重さを感じたいと思っっているのです。そのように五感を活用することで、自分で考える土台を身につけているように思えます。

一方、今はインターネットの活用で、世界と簡単につながることが出来ます。世界には豊かな国や貧しい国などいろんな国があり、いろんな人が生活していることも知ることが出来ます。地球の温暖化対策は喫緊の問題と言われていますが、世界と関わりながら、地球の問題を考えることも、これからは当たり前になっていくと思えます。

2年前、コロナ禍を予想した人はいませんでした。今後も、いろいろな問題、予想もできない変化が待っているでしょう。そのような社会に子どもたちを送り出すために、コロナ禍で様々な制約があるかもしれませんが、これからは、自然とふれ合いながら、子どもたちの好奇心や自分で考えたという欲求を大切にしていただければと思います。

子どもの成長を

喜び合いたい

さいたま市 二宮 亜里

コロナ禍のもとで教職員の道を選ばれたみなさん、毎日子どもたちを受けとめてくださり感謝しています。

わが家はフルタイムの共働きで小学3、年長、年少の子がいます。仕事と家事に追われ、「今日も手抜きのご飯でごめんね」と悔やむこともありますが、あまりの疲れにぐっすり眠って忘れてしまう毎日です。

縁あって、さいたま市で子育てすることになり、「地域とともに生きる仲間がほしい」と保育園、放課後児童クラブ(学童)、各種団体に積極的に関わってきました。なかでも学童は保護者会運営なので、職員(支援員)の求人、児童の募集、財政運営、施設の維持管理、会議の開催などに働く保護者が共同で取り組んでいます。

放課後を学童で過ごす子どもたちは「ただいま」と学童に帰ってきます。「おかえり」と迎える支援員。おやつを食べ、暗くなるま

で外で一輪車に乗る子、手芸や工作に勤しむ子。わが子の学童には六つの小学校から子どもが通ってきていますが、学校も学年も関係なく、泥んこになって遊んだり宿題を教え合ったりしています。集団生活ですから、トラブルもよく起きます。大事にしているのは「みんなが居心地よく過ごせる学童にするために、よく話し合うこと」。保護者の懇談会、高学年だけの会議、子ども全員参加の「子ども会議」など、「コロナの中で、よくもまあ何回も話し合っているものだ」と感じます。

5月の子ども会議の様子を、支援員が通信で知らせてくれました。「学童の生活の主役は子どもたち。自由を求めることも重要ですが、ルールを自分たちで決めることは避けられません。異年齢の仲間の考えや寄り添いに気づく大切な作業です。T君が司会をしてくれ、約30分、臆病にならずに意

見がどんどん出てくる! 『しゅくだいむむ おやつのおと15分(やりたい人)』『おやついただきますのしかた じゆう』など、子どもたちの納得のいく生活ルールが決まりました」

通信を読み、子どもたちの姿に自省することしきりです。テレビを見る時間、宿題をする時間、お手伝いとお小遣いのルールなど、子どもの考えを聞かずに親の思いを押しつけていないか。多様性を認め合うことが大事だといえながら、もともと身近な家族、子どもを対等な存在として尊重しているか。学童は、子どもを中心に保護者と支援員がともに考え、学び合って一緒に子育てをする場だと感じています。私は、学校の教職員のみなさんとも、子どもの成長を喜び合いたいと願っています。

昨年の一斉休校の際、国は学童に「原則開所」を要請しました。学童は社会の機能を維持するために不可欠な存在だと認知されましたが、国や自治体が学童にかける予算は足りません。学校でも家でもない、「第三の居場所」で子どもたちが安心して生活できないと、保護者は働き続けられませんか。

教職員のみなさんの中にも、働く保護者はたくさんいらっしゃると思います。私たちが生き生きと働き続けられる社会の実現へ、ともに力を合わせられるとうれしいです!

生き生きと働き続けたい

働く

◆年次有給休暇

すべての教職員

◆生理休暇

1回の生理につき2~3日
(電話で伝えるだけでもOK)



結婚

◆結婚休暇

結婚生活に入るための諸行事をおこなうために5~7日の休暇

妊娠

◆通院休暇

妊娠中および産後1年以内に、保健指導・検診審査を受けるための休暇

◆通勤緩和休暇

妊娠中、母体の健康維持をはかるために、一日1時間以内の勤務時間の繰り上げ・繰り下げができる

出産

◆出産休暇

労基法では産前6週(多胎児14週)、産後8週。2週間の加算があります。

◆出産補助休暇

配偶者の出産にあたり、夫である男性教職員に2~3日の範囲で認められる



病気

◆病気休暇

病気休暇は、90日まで有給で取得可。



子育て

◆育児休業

子どもが3歳に達する日まで取得可能(男性も可)

◆子育て休暇

子ども1人の場合7日、2人以上は10日取得可。子どものけがや病気の看護、学校行事が対象。

介護

◆介護休暇

病気、負傷、老齢などにより2週間以上にわたり日常生活を営むのに支障がある者の介護をおこなうための休暇。1つの継続する状態ごとに6月の期間内
※範囲/配偶者、父母、子、配偶者の父母、祖父母、孫、兄弟姉妹、事実上の父母や子



絵・島ちづる

一人で悩まず、仲間に相談を
職場のいじめ、パワハラ、セクハラ

048 (824) 2511 埼玉県教職員組合
048 (822) 7421 埼玉県高等学校教職員組合